

活動報告書

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号 1760416
不二幼稚園

1, 活動のテーマ

【テーマ】

音を奏でる（鼓笛）

【テーマの設定理由】

当園では年中時より「音の玉手箱」というリズム遊びを取り入れ、打楽器を中心に楽器に触れあう時間を設けています。また、ピアノに親しむ時間も設け、保育の中で子どもたちが楽しみながら活動している様子が見られます。このような、様々な音に関する活動が子どもの達成感や、自信に繋がられる活動になることを願って、発表の機会を設けています。年長児が小学校への進級にむけても、この活動が今後の子どもたちの役に立つと考え、このテーマに設定しました。

2, 活動スケジュール

- 1、タン、ウン、タン、ウンとリズムを手拍子や、口に出して覚える
- 2、楽器に触れて音が出る楽しさを知る
- 3、いい音を奏でる練習をする
- 4、保育士に合わせてリズムをとってみる
- 5、友達と音を合わせて演奏する
- 6、楽譜を配布し、他の楽器と音を合わせて合奏する
- 8、歩きながら合奏してみる
- 9、年少、中の園児の前や、運動会で保護者へ発表する

3、探求活動の実践

【活動の内容】

- ・活動の為に準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や、保育士との関わり合い

実施報告

活動のために小太鼓、大太鼓、シンバルを用意、
リズム遊びからの楽譜通りのリズムへの誘導
自分の出している音を聞いて楽しむ

活動中の子どもの姿

楽器に触れてどうしたら上手にきれいな音が出せるか、様々な太鼓のたたき方や、シンバルの打ち方を自由に試打して、自分がきれいだと思うたたき方、打ち方を考えてみた。

次に、友達に披露し、周りの子がどう感じているのか、子ども同士で感じたことを伝え合いながら、自分なりのいい音色をたたき方を工夫し作り上げ、奏でた。

保育士と一対一で練習してがんばる子、保育士からの励ましの声掛け、さらに保護者の家庭での応援、励ましの声掛けで自信を持つ子と様々な様子である。園児の達成感や満足感を高めるための園側と、保護者の連携で大きな共感を得られた。

友達と音を合わせて合奏でるようになるまで もっとやりたいと頑張る姿も見え、満足するまで楽器に触れ合えるようにした。曲でのリズムがとれるようになり、ホールで立っての演奏、歩きながらの演奏、そして外を行進しながらの演奏、鼓笛隊以外のピアノと合わせての練習、運動会の発表に向けて団結して練習に取り組んだ。



4、振り返り

子どもたちには、音を出す楽しさを感じさせたいと考えた。そのため、はじめは自由に音が出る楽しさを知らせたいと試みた。こどもたちが楽しそうに思い切りたたいたり、やさしくたたいたり目を輝かせて楽しんでいた。そのような様子から、音を自分で出すことは子どもの好奇心を膨らます事なのだと改めて気が付きました。保育士も子どもたちと楽しく音を出して楽しみ、子どもたちと気持ちを共有できて楽しい時間でした。

初めて園庭で練習をして、職員から拍手をもらった時の子供たちの驚いた顔、そこから自信がついた顔に変わって、慣れてきてリズムが勝手に早くなって、指揮者を見る練習、そこからのまたまた素晴らしい大太鼓、小太鼓、シンバル、ピアノカの演奏に繋がって、職員、保護者も感動の発表になりました。

運動会の発表を終えて、子供たちから「鼓笛終わりなの？嫌だなー」「寂しいなー」「もっとやりたかったなー」「楽しかったなー」っと声があがっていました。

今回の「音を奏でる」の実践は子供の自信につながったばかりではなく、保育士、保護者をも巻き込みながら、「音を奏でる楽しさ」を感動を皆が味わうことができたと感じました。これらの実践を通して「協調性の大切さ」「努力し頑張る事の意味」、「仲間で1つの事を成し遂げる素晴らしさや喜びを」を改めて確認することができました。